

支援センター名	岐阜県青少年の奉仕・体験活動支援センター
所在地	〒500-8384 岐阜県岐阜市藪田南5-14-53 岐阜県民ふれあい会館第2棟5階
連絡先	Tel 058-277-1149 Fax 058-277-1150 E-mail manabi@govt2.pref.gifu.jp URL http://indi-info.pref.gifu.jp/manabi/

事業の概要とポイント

岐阜県青少年の奉仕・体験活動支援センターは、県内市町村支援センターの運営や基盤づくりを目的とし、平成14年度より体験活動及びボランティアコーディネーターに関する基礎的知識、技能を習得する研修の実施を通し、コーディネーターとしての資質向上を図ることをめざし、年間4回のコーディネーター養成講座を企画・実施した。

また、「青少年の奉仕・体験だより」を、年2～3回発行し、県内の支援センターの活動や様々なボランティア活動や体験活動を紹介してきた。

関係した学校・団体等の名称

県内、66市町村の体験活動ボランティア活動支援センター

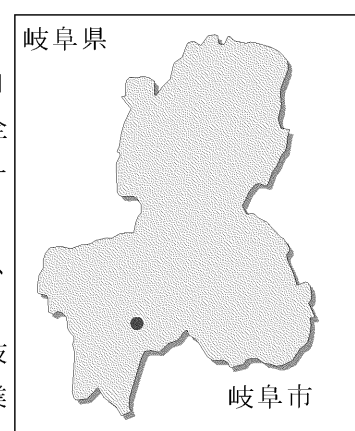
地域の現況・特色

活動対象地域は岐阜県全域である。

本県は日本のほぼ中央に位置しており、関市武儀町には、日本の人口重心がある。面積は約1万620平方キロメートルで、全国第7位の広さを誇り、7つの県に囲まれた数少ない内陸県の一つである。

岐阜県の人口は1983年に200万人を超えた。その後も増え続け、平成17年現在では211万6651人で、日本の総人口の1.7%を占め、全国第18位である。古くからものづくりがさかんで、工業は岐阜県の中心的な産業となっている。全産業の事業所のうち工業の割合はおよそ19%と、全国で最も高くなっている。ファッション、陶磁器、家具・木工、刃物、紙、プラスチック、食品などの特色ある地場産業がある。

平成14年の時点で99の市町村があったが、平成の大合併により、平成18年3月には半分以下の42市町村になる予定である。



企画から活動までの経緯

平成14年度より、岐阜県では県内99市町村（当時）に3年間で全市町村に支援センターの立ち上げを目指し、初年度に33市町村、2年目に54市町村、3年目に66市町村と市町村合併が進むなか、9割の市町村に支援センターを設置することができた。

初年度より年4回にわたり「企画立案能力」「情報提供・相談活動能力」「支援能力」「連絡調整能力」の育成に焦点をあてたコーディネーター研修を企画・実施してきた。

また、県内5地域の中から、毎回各1事例ずつ情報ボランティアの方に取材をしていただき、特色ある支援センターの取り組みを紹介してきた。また県の支援センターからは、全国的な奉仕体験活動の取り組みや、ボランティアコーディネートの仕組みを掲載した。

事例の展開内容（特色など）

第1回研修

期日 7月15日（木）10：00～16：00

会場 （財）岐阜県教育文化財団 生涯学習センター

内容 （1）趣旨説明………青少年の奉仕体験推進事業について（社会教育課）

（2）①事例発表……板取村 長屋 守芳 氏
中津川市 鈴木 唯仁 氏

②講義・演習…「ボランティアマネジメント」

講師：長野市ボランティアセンター

運営委員長 内山 二郎 氏

<演習>

ワークショップ

・「青少年のボランティア・体験活動の課題を考えよう」

・アイスブレイク・KJ法七ならべ風ワークショップ 等

<講義>

・ボランティア学習の3要素

・地域の課題発見と合意形成の手法としてのワークショップ

・情報の収集と多様な機関との連携 等



第2回研修

期日 10月7日（木）10：00～16：00

会場 （財）岐阜県教育文化財団 生涯学習センター

内容 （1）講義………「コーディネーターの具体的業務と事例報告」

講師：島根県体験活動ボランティア活動支援センター

コーディネーター 周藤 八重子 氏

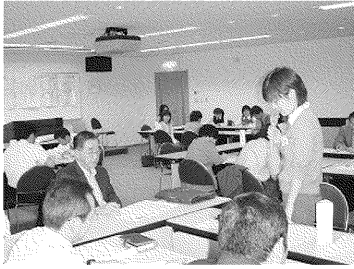
<講義>

・コーディネーターとして大切にしていること
“聴く” “人が宝” “誠意をもって精一杯”

・コーディネーターは「ハミネーター」 等



(2) 実践交流会



各支援センターの進捗状況をもとに、実践について交流し、今後の支援センターの活動に生かすとともに、ネットワークづくりを行う。

「このような機会をもっとつくって欲しい」との声が多数出される。

第3回研修

期日 12月9日(木) 10:00～16:00

会場 (財)岐阜県教育文化財団 生涯学習センター

内容 (1) 講義……………「家庭・地域の教育力を見直す」

講師：日本福祉大学講師 小野木 義男 氏

- ・非幸少年と共に生きて
- ・次代を担う子どもたちに何を遺産として残せるか
- ・その子の真価を認める “きみが必要だ”

(2) 講義・演習…「コーディネートの実際～体験活動・ボランティア

活動を促進するための視点～」

講師：大阪教育大学助教授 新崎 国広 氏

- ・ワークショップへの誘い
- ～頭と心と身体を使って学ぶこと～
- ・コーディネーターに必要な5つの要素
- ・十人十色～多様性の気づき～



第4回研修

期日 2月17日(木) 10:00～16:00

会場 (財)岐阜県教育文化財団 生涯学習センター

内容 (1) 実践報告

事業の最終年度として、成果と課題を明らかにし、今後の青少年の奉仕・体験活動への支援のあり方を考える。

(2) 講義……………「青少年の奉仕・体験活動への期待」

講師：日本ボランティア学習協会常任理事・亜細亜大学非常勤講師

木村 清一 氏

- ・中・高校生がボランティア活動で獲得していること
- “課題の発見と課題解決の力”
- “他者と関わる力”
- ・地域社会と青少年を結ぶ機会の創出
- ・コーディネーターのネットワーク化



奉仕体験情報紙の発行



情報ボランティアの方に取材をしていただき、事例を紹介し、各支援センターにおける活動の推進と普及啓発を図ってきた。

また、第2回研修の実践交流会に参加して、各支援センターからの情報収集をしていただき、紙面に活かすことができた。



企画・活動する上でのポイント、留意点など

市町村担当職員、専属コーディネーター、指導員と、受講者のニーズは少しずつ違っている中で、コーディネーターの役割に焦点をあてた講座を企画・開催してきた。

各市町村の広報誌や支援センターの情報紙などから、(財)岐阜県教育文化財団生涯学習センターのホームページ中の岐阜県情報提供システム(スマイル)に掲載することにより、各支援センターが開催する最新の講座を情報提供してきた。

評 価

市町村合併が進む中での活動であったが、3年間で、66市町村に支援センターが設置され活発な活動が展開された。

研修の中の実践交流会や実践報告会を通して、市町村相互が刺激しあい、支援センターの活性化につながった。

またコーディネーターの仲介によって、学校教育・社会教育・社会福祉協議会などヨコの繋がりが活発になり、子どもたちの活動の場が広がった。

合併後の市町村に、旧町村単位で支援センターが残り、活動をするなど、事業終了後も地域に根付いた活動が継続(本年度も半数以上の市町村に支援センターが残る)されている。今後も支援センターが地域の核となり、子どもたちの豊かな体験の場がさらに広がって行くことが期待される。

執筆者職・氏名： (財)岐阜県教育文化財団 生涯学習センター
課長補佐 後藤周太郎